

令和 8 年度第 1 回高松市地域学校協働活動研修会報告書

■目 的：コミュニティ・スクールの仕組みを活用して、地域学校協働活動を推進する意義やコーディネーターの役割等について、共に学び、「子ども参加」の取組について考えることにより、共通理解を深めることを目的とする。

■開催日時：令和 8 年 6 月 2 9 日（月） 1 3 時 3 0 分～ 1 6 時 2 5 分

■会 場：高松市役所 防災合同庁舎 3 階 3 0 1 会議室

■参加人数：7 2 名

■受講対象者：高松市立小・中学校の教職員、学校運営協議会委員、コーディネーターやその候補者、地域住民 等

■研修内容

1. 講義：香川大学 教育研究科 教授 柳澤 良明 氏

事例発表：亀阜小学校、木太小学校、十河小学校、木太北部小学校、川東小学校

2. ワークショップ：「子ども参加でつくるコミュニティ・スクール」

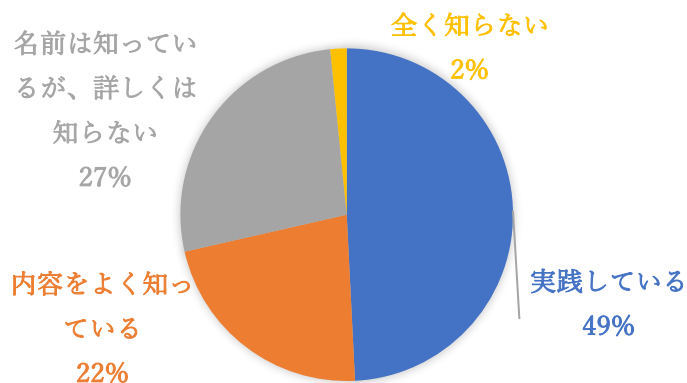
3. アイデア共有

4. 事務連絡

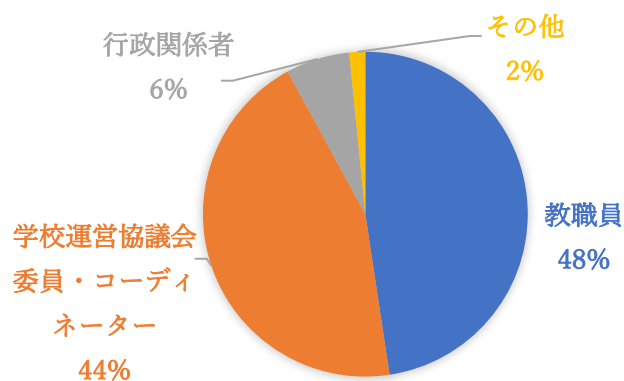
■ アンケート結果（回答数 63名（回答率87.5%））

<集計結果>

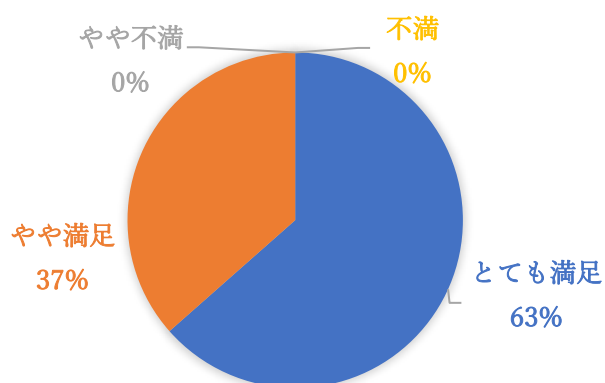
研修前の理解度



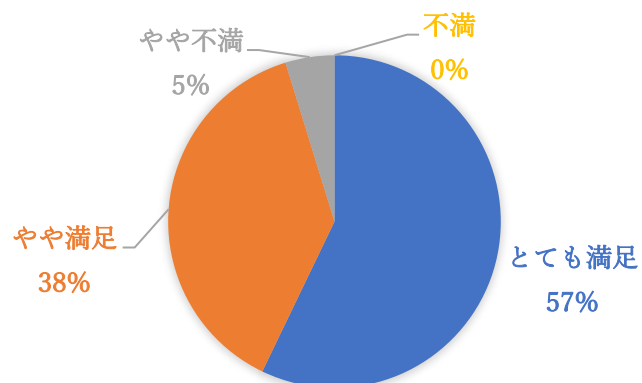
参加者の所属



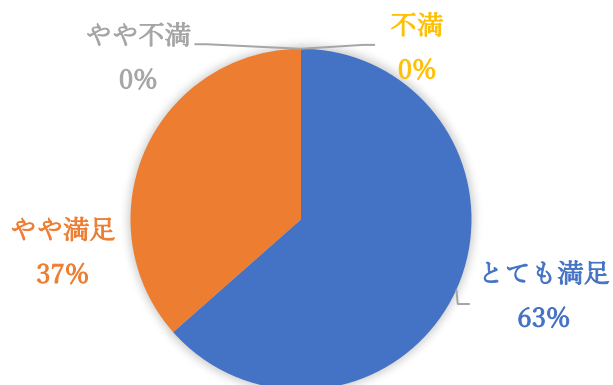
研修全体の満足度



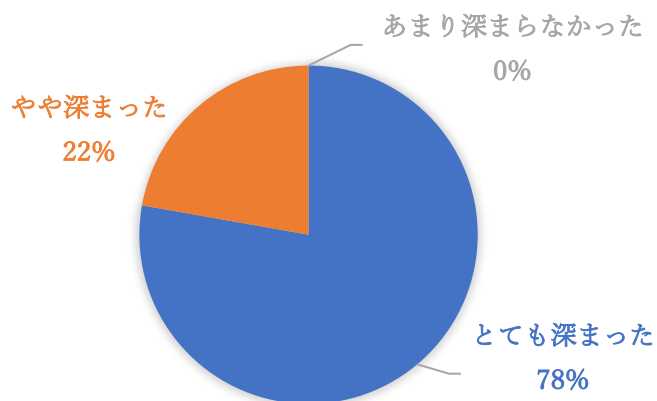
講話の満足度



研修全体の満足度



理解度の深まり



■主な感想等

- ・子どもが主体となって参加する場が大切だと思いました。
- ・地域での、地域・学校・子どもとの会議など様々な実践を知る機会となった。ただ、それらを取り入れて行うには、どう地域で提案し取り組める状況にするかそのきっかけ作り等、活動基盤づくりが不可欠。その基盤づくりの秘訣、工夫をもっと語ってほしかった。実践に向けての一步をどう作るのか、そこを深めていける場も、知も欲しいと思いました。
- ・地域学校協働活動と総合的な学習の時間を、うまく連携しないともったいないと思ったので、地域に持ち帰りたいです。
- ・コーディネーターの役割が分かりにくい。
- ・他校区の取組が聞けて良かったです。子どもが参加する…、なかなか難しいですが、目指していきたいです。
- ・私の地域はまだまだ問題が山積みだと思いました。今日の研修の中で、「子ども」「地域の子ども」を巻き込むということができていなかったことに気づかされました。
- ・様々な立場の人が、地域の子どもたちのために何かしたいという一つの共有する大きな想いを持っていることが分かり、良かったです。
- ・大人も子どもも楽しくないと持続しないと、改めて感じました。子どもの楽しいを応援できるようにしていきたいです。
- ・制度（器）ではなく実態（中身）が大切であるという考え方がとても参考になった。子どもが作っていくという視点で、今後も考えていきたい。
- ・子ども主体で考える事の大切さは分かりましたが、本校はまず「高松市地域学校協働活動」を進めていきたいと思いました。
- ・各校区の情報が分かり、刺激になった。
- ・子ども達の意見（地域に関して）が出たときに、学校側ですぐに結論を出すのではなく、「地域の意見を聞く」という視点を持ち、子どもが「～したい」と思っていることを表現していけるようにしたいと思った
- ・中学校に複数の小学校から進学している校区は、連携をどうするか少なくとも話し合っておく必要があると思った。
大人は達成感があるが、子どもの達成感を意識していない大人がまだ多い実感がある。「～をやらな」という意識ではなく、「子どもが何をやりたいか」などと意識改革をする必要があると思った。
- ・グループ交流の時間をもう少しとってほしかった。

- ・「学校（子ども）を中心とした地域活動」「地域と学校の連携・協働」は非常に重要な取り組みだと感じています。この取り組みの先（将来・結果・目的）が何なのかを見据えて協議・活動することも必要だと感じました。また、この活動に関わる地域の大人が限られていることも課題だと考えます。活動の理解を広げ、関わる大人の数を増やす活動も並行して必要だと感じています。
非常に良い取組であり、広げていきたい活動であるが、関わる大人の自己満足にならないように、中心は子どもだということを常に意識した行動をしなければと考えます。子ども達に、体験・経験をいかに多く提供できるかが、地域の大人の課題だと感じました。
- ・他の地域の様子や考え方、実情が分かり良かった。
- ・グループワークではいろいろな意見が出たので、学校に持ち帰りたい。
- ・「制度じゃなくて中身が大事」のキーワード、とても響きました。
- ・他の地域の情報を得られたことは大変ありがたい。また、学校運営協議会を今後どうしていくのかという課題を感じていたため、時期的にもヒットする内容だった。本日、考えた内容を実際に取り入れていくことで、子どもが育つ地域、子どもが担う地域になっていくと感じた。
- ・「子どもを参加させよう」でのグループワークでは、子どもの顔も浮かび楽しかったです。教員が負担にならないか本音が聞きたいです。（地域としてとらえることがどこまでできるのか知りたいです。）講義もグループワークも学びがあり、実践したいものもいくつかあり貴重な時間でした。
- ・地域学校協働活動については、「こういうことができたらいいな」というイメージはあるが、諸事情を言い訳に十分実践できていない部分が大きいと感じている。子どもを蚊帳の外にせず、地域で暮らす一員として共に活動できる環境を整えていきたい。
- ・実施している活動のグルーピング、コミュニティの規模やジャンルごとにまとめて、参考例になるとありがたいです。
- ・研修冒頭の5本の事例報告はとても参考になったが、それぞれにコーディネーターがどのように関わっていたかについて、聞きたかった。
- ・子どもがつくることが大切であると感じた。
- ・とても刺激になりました。
- ・子どもの意見を聞くことの大切さがわかりました。
- ・今回、教員の方が多く参加されて、地域と学校の共通理解の場になったと思います。学びも多く、参加してよかったと思いました。グループワークの時間がもっとあればと感じました。
- ・他の校区での取り組みが分かり、勉強になった。本校もやってみたいことが見つかった。
- ・子ども自身が、自分たちのこととして考え参画できることの大切さをよく理解できた。自分の地域でどんなことができるか考えてみたい。
- ・自由な意見交換ができた。子ども参加のアイデアをたくさん得られた。

- ・何か地域の方とやることを、一つでも今年度中に増やしてみたい。
- ・コミュニティ・スクールの運営に、子どもの意見を取り入れるという発想は全くなかったです。とても勉強になりました。
- ・様々な学校の取組を知ることができました。特に子供が地域の人と対話し、地域や学校を自分事としてとらえていこうとすることは、刺激的でした。自校での枠づくりについて、考える機会となりました。
- ・教育現場の意見を聞くことができたので、協働推進員としての活動時に役立てたいです。
- ・地域学校協働活動の取組を、その中心を担う子供たちに伝えることで、主体的に取り組んでくれると思う。
- ・多様な住民への研修機会をお願いします。
- ・ワークショップでは、「子どもの取組をたくさん考えよう」という課題であったが、情報共有が中心になってしまった。ということは、どの校区でもずい分「子ども参加」を意識して取り組むようになってきているのかなあと思った。